平成三十年 戊戌						
七月（文月）	九、十日 四万六千日（ほおずき市）	二十八日 隅田川花火大会	八月（葉月）	十五日 万霊燈籠供養会	二十五日 浅草サンバカーニバル	
九月（長月）	四日 台東薪能	二十三日 彼岸会	十月（神無月）	十八日 金龍の舞・菊供養		
十一月（霜月）	三日 白鷺の舞	十三、二十五日 酉の市	十五日 七五三			
十二月（師走）	十七～十九日 歳の市（羽子板市）	三十一日 除夜の鐘（弁天山）				

二〇一九年 己亥						
一月（睦月）	初詣 浅草名所七福神もうで		二月（如月）	三日 節分の日	八日 針供養	
三月（弥生）	十八日 浅草観音示現会・金龍の舞		四月（卯月）	八日 釈尊誕生日（花まつり）	中旬 白鷺の舞	中旬 浅草流鏑馬 早慶レガッタ
五月（皐月）	五日 宝の舞	十七～十九日 三社祭	六月（水無月）	二十九、三十日 お富士様の植木市		

●浅草・槐の会 お客さまおもてなしマガジン

The Door Step to Japan

日本の扉 浅草

vol.41

2018年 秋冬号

槐之舎

ASAKUSA

浅草を彩る9月～2月の代表的催事

9月　長月

彼岸会

● 9月23日

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穣を願う祈りに端を発しています。浅草寺では、五重塔に霊拝を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

10月　神無月

金龍の舞

● 10月18日

浅草寺の正しい名称は「金龍山浅草寺」といいます。

金龍山の山号は、浅草観音承応縁起に書かれている「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松の中に下りし」に由来しています。この故事を踏まえて創作された舞が「金龍の舞」です。毎年3月と10月の18日に、いなせ半纏、はらがけ、もも引きの江戸っ子姿の浅草寺舞保存会メンバー9名の手によって勇壮に演じられています。

10月　浅草菊花展

11月　霜月

白鷺の舞

● 11月3日

今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。

酉の市

● 11月1・13・25日

酉の市は、秋の収穫期に神社に鶏を奉納した「とりまつり」に由来し、神社から農家に授ける熊手が「とりこむ」ということで縁起が良く、商売繁昌を願う催しとなりました。酉の市で有名なのが浅草・千束にある鷲（おおとり）神社。その愛称である「おとりさん」がいつしか酉の市のことを指すようになりました。酉の市は11月の酉の日に開かれます。三の酉まである年は火事が多いという俗説があります。火の用心にはお気をつけ下さい。

11月　白鷺の舞

12月　師走

納めの観音、歳の市《羽子板市》

● 12月17～19日

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常“ガサ市”と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れに来ています。江戸末期より“生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる”との謂れから女児の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では“羽子板市”と呼ばれるようになりました。

1月　浅草観音初詣

2月　節分会

1月　睦月

浅草観音初詣

● 1月1日

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに始まる初詣。正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいだ人々で埋まります。

2月　如月

節分会

● 2月3日

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台で、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半～6時までの間5回に分けて行われています。

1月　江戸消防記念会・はしご乗り

■■ 9月～2月 その他の催事 ■■

◆七五三加持会……11月15日
◆除夜の鐘……12月31日
◆浅草名所七福神詣り……1月1日～
◆江戸消防記念会・はしご乗り…1月6日
◆待乳山聖天・大根祭り……1月7日
◆針供養……2月8日

第五回

「三社祭の歴史 前編」

浅草寺子屋

講師 荒井修

この記事は2010年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事を企画しました。

最初は3月に開催 質素だった三社祭

え一先日、大阪の平成中村座（2010年、大阪城内西の丸庭園にて公演）を見に行ってきました。その前に五軒長屋という、職人の出店なんかをやるスペースがあって、だんじり囃子というのをずっと聞いておりました。上方のお囃子というのもなかなか良いものですね。それに対して今日は江戸の祭り、三社祭の歴史ということでお話を進めていきたいと思います。

三社祭というのはね、鎌倉時代末期の「応永縁起」に書かれているのを見ると、初めて開かれたのが正和（しょうわ）元年だとあります。平成の前の昭和じゃなくて正しいに和の「正和」でね。1312年の3月に第1回の三社祭が開かれている。数えてみると再来年（2012年）がちょうど三社祭700年ということになるわけです。浅草の観光連盟の方でもいろいろ進めております。節目の年に何をやろうかってね。

三社祭は当初、観音様がご示現した日の3月18日に行なっていて、「示現会」といっていた。これが現在では5月に変わっている。改暦というのが行なわれてね、明治5（1873）年の12月3日に。旧暦から新暦に変わるということで、今までですと大の月が30日、小の月が29日だったのが、大の月が31日、小の月が30日に変わるわけです。月に1日ずつ増えるんですね。だから昔は1年で11日少なかったんです。3年経つとその差がひと月を超えてしまう。それで江戸時代には閏月（うるうづき）というのがあってね。今、4年にいっぺん閏年というのはありますけどね。明治5年12月に改暦になるということは、三社祭が5月に変わったのは明治6年です。それまではずっと3月、弥生の花浅草祭といわれたわけです。

図1：現代の三社祭の賑わい

1312年の三社祭はどうして行なわれたかというと、「神のご神託によって神輿を飾りたまわらん。舟遊びの祭礼として営み天下の安寧を祈り奉るものとして…」と書かれています。この頃から舟遊び、船渡御というのをやっていて、船の上にお神輿を祀っているんですけれども、まだまだ質素なお祭りだったというふうに言われています。

天下の神田祭・山王祭よりも 派手だった三社祭

これがまあ、徐々に徐々に派手になっていくわけですな。江戸の頃になると大変賑やかになっているわけです。江戸の祭りっていうとどうしても天下祭りが一番格式があります。江戸城のこちら側、浅草に近いほうが神田明神で、赤坂側の半分は山王さん、日枝神社のお祭りになるわけです。この2つの祭りは天下祭りと呼ばれてね、山車やなんかが江戸城内に入れて、天下御免のお祭りということになる。

三社様は天下祭りにはならない。ただし、神田より赤坂より一番の盛り場は浅草ですから、盛り場っていうのは何をやるにも派手です。どんどんどんどん、金を使い派手なお祭りになっていくんです。それから情報も一番早いんです。何ていったって廓が控えてますからね。廓ってのは情報が早いんです。

情報が早いのが何でお祭りに関係あるんだとお思いの方も多いと思いますけど、「練り物」というのがあるんですな。お神輿の他にまず山車が出るでしょ。山車というのはどこの町会には何が乗っかってるって決まりがあるんです。それに対して練り物というのは、その年一番の流行りものなんかを作っちゃったりなんかするわけですね。踊りまで作っちゃったり、衣装を揃えちゃったりしてね。練り物というのは神田もずいぶんやっています。神田は江戸城内に入っていくようなお祭りですから、大奥の御殿女中なんかが「今度の△町の練り物にさ、歌舞伎の何代目△△の出し物

図2：神輿蔵の中でも3基の並びは左から三之宮、一之宮、二之宮（P6参照）

入れてよ、評判だから」とか言って、入るなんてことがあるんです。

「いいんだよ、お祭りだから」 商家の娘もお姫様に

浅草の練り物はもっと身近なものです。もちろんお芝居は身近なものですけど。上から言われるんじゃなく、「こんなことをやりたい」っていうのが庶民からどんどん出てくる。どんどん出てくると上も下もなくなるんです。すごいですよ、商家の娘をお姫様にしちゃったりね。なんか派手な着物を着せたり、派手なお駕籠まで出しちゃったり、あるいは屋台に乗せちゃったりしてね。それにものすごい人数のお仕えの人がついて大人数になっちゃったりするから、どんどん派手になって。制約も「いいんだよ、お祭りなんだから」なんてことをいって無視しちゃう。

三社祭っていうのは今、陰も日向もない、毎年が本祭という状態ですな。だけど江戸時代には陰祭と本祭があったんです。山王さんの方は子年から始まって一つ置きに本祭。神田は逆に丑から始まって一つ置き。三社も神田と同じです。ただし当時の神田祭は秋のお祭りです。春に行なわれるのが山王、秋が神田明神、後に夏祭りに変わるんですけど。浅草はずっと夏祭りですけど、陰だからといって遠慮せずどんどん派手になっていく。町場というのはそういうものですね。

三社祭の当日、浅草神社の前に並ぶ旗

お祭りはどういうふうに行なわれるかというのを説明しなくちゃいけないね。3月17日が堂上げで、18日が堂下げ。17日に宮神輿3基を（浅草寺）本堂の上に上げるんです。ご祭神である中知、浜成、竹成の御霊の入ったお神輿を観音様に一夜、堂上げするんです。多い時は五日泊まりもあるそうですけど、普通は一夜です。で、翌朝、本堂から下におろすということで堂下げ。

これの前、3月16日に神輿洗いというのがある。神輿洗いというのはまあ、一年の埃を取ったりするんでしょうな。17日になりますと、浅草神社の三代将軍家光が建てた社殿…今の社殿ですよ。戦争で神輿蔵は燃えたけど社殿はそのまま残ってるんだから。この社殿の前、左右に一対、日月旗を立てる。日の丸みたいじゃなくて長い旗があるでしょ。で、その両サイドに四神旗といいますね。先端が剣の形になっているんで、江戸っ子は「四神剣」なんて言ったりしますね。落語にもなっている。四神というのは青龍・白虎・朱雀・玄武です。一番わかりやすいのが、相撲の大屋根、つり屋根がありますね。あそこの四隅に四色の房が下がっているでしょ、あれが青龍・白虎・朱雀・玄武ですね。青龍というのは青と書いて緑なんです、実はね。青っていう色はね、日本においては緑も含めて全部青なんです。昔は青と赤と白と黒しかない。そういう4色くらいしか、俗に言う言い方は無かったんです。

色というものの話をしていくと、江戸では四十八茶百鼠なんていってね、四十八種類の茶色と百種類のねずみ色、これを最も尊んだんですな。鼠の中には何と藍も入るらしい。茶色っていうのはお芝居の中にも散見しますけど、成田柿なんて柿色があります、「暫」の衣装なんて成田柿ですね。芝翫茶なんていうね、中村芝翫ゆかりの茶色もある。中にはわかんないのもありますよ、大和柿なんていってね、三津五郎のところの柿色はほとんど肌色です。そういうのも茶色に入っているそうですけどね。

青龍が東です。白虎、これが西です。南が朱雀といって、朱の鳳凰ですな。北の玄武だけ、文字の中に動物が隠されてない。黒い亀です。これが旗竿の一番上に乗っかってるんです。ということは日月旗と合わせて6本の旗がそこに並ぶというわけです。

明かりを消して袖に隠して御霊移し

そして御霊移しが行なわれるわけです。御霊移しの時は、昔は神輿を社殿の中に上げたんです。浅草の三社様（浅草神社）の中に入ったことがある人もいると思うんですけど、階段上がってすぐのところが3つの部屋に分かれてるね。中央の部屋、西側の部屋、東側の部屋。西側というのが浅草寺の本堂側、東側というのが隅田川側ですな。よく言うんです、三社祭の日に神輿をあそこにずらっと並べてね、「おい、ケツの方、もうちょっと本堂に振ってくれ」「頭の方、隅田川に振れ」なんてね。西と東がよくわからない人がいるといけないんでね（笑）。

このうち真ん中の部屋に一之宮が上げられるんです。ただし昔の祭りですから、今の一之宮とは違いますよ、もうちょっと小さいです。で、二之宮が隅田川の方、東に、三之宮が本堂側の方、西に入れるんです（**図2**）。これが午前10時で、浅草寺のお坊さんも6人来て、散華というね、お経が読まれ、花びらが散らされる。その間に神職である宮司や禰宜がですね、御霊移しの儀式を行なうわけです。この時に神輿を社殿に上げる役は、仲見世界隈と奥山界隈の老舗の者たちだったということです。そして社殿のお扉を閉めて、ろうそくの灯りや炎の明かりが全部消されて、大太鼓を叩く音の中、一の権現、二の権現、三の権現の順に御霊を移すわけです。

その6人の中の1人に、浅草寺支院の顕松院（明治時代に廃院）のお坊さんがいました。浅草小学校と産業会館の間の通りを江戸通りに出る手前の左。その境内に一の権現社、つまり中知の権現社もありました。ここのお坊さんが、法衣の袖で御霊を隠して、お神輿の中に入れるということが行なわれたんですね。

浅草寺の本堂に神輿を上げる「堂上げ」

終わった後、拝殿の扉が開きますと、待機していた役店と呼ばれます、仲見世や奥山で古くから営業していた29人の手によって、この神輿を担いで浅草寺本堂の外陣に持っていくわけです。一夜か三夜泊まり、五夜というのは本当に珍しかったそうですけど、浅草寺本堂内で宿りごとをする。

一之宮のところには専堂坊という人がつく。この人は中知さんの子孫と言われているんですな。それから田村八太夫という関東神事舞頭、関東中の神事のことを全部やる人がいて、その弟子も一之宮につく。二之宮には斉藤坊という人と、田村八太夫の弟子が一人。三之宮には常音坊という人と、田村八太夫の弟子がつく。この行列が鳥居を出て本堂の正面を上がって堂上げをするわけです。中央が一之宮です。さっきと同じく東が二之宮、西が三之宮。ご本尊を背にして、神輿の方に向いてお経と散華が行なわれる。今もその通りにやっておられますでしょ？　この間、神社の社殿では田村八太夫配下の人が中臣祓（なかとみのはらい）というお祓いを読む。

3月18日は名主や槍持童子らが盛大に行列

その翌朝、3月の18日は大変です。本祭の年だと午前8時、陰祭の年だと午後2時に、びんざさら舞が行なわれる。その前に囃子方だとか舞い方だとかが二天門前に集合して、広小路…雷門前の通りを広小路っていうんだね。今で言うと避難場所。大水が出たりした時にはそこに行きなさいというのが広小路。

広小路を経て、今の浅草公会堂があるオレンジ通りですかね、に入り、一度、伝法院裏に入る。本坊で支度を整え、仲見世から仁王門をくぐって本堂を右回りに1周する。時計回りですね。本堂の前で獅子舞とびんざさら舞が行なわれる。雨の場合だけは本堂の中でびんざさら舞が行なわれた。

各町には名主というのがおりますけど、名

図3：「江戸名所図屏風」に描かれた三社祭。練り物が歩く様子や、船渡御をした神輿が浅草寺へ帰っていく様子が描かれている

主とか年寄りが裃を着用で先頭を切る、いずれも帯刀、短い刀を脇に差していたんですな。杖を突き進む。その後ろに10歳前後の少年が尻を端折って槍を担いで草履履きで、5人ずつ2列で続くんです。その10人がどっから選ばれるかっていうと、山の宿と材木町から5人ずつ。山の宿というのは花川戸のちょっと先ですね。材木町はむぎとろさんとかあの辺り。槍持童子というんですけど。戦で使う槍じゃなくて、鎌に近いんです。ですからそれがいわゆる草刈童子というやつで、びんざさらの最も古い形。観音様がご示現した後で、浜成・竹成が槐の木の切り株に祀りますよね。それでひと晩のうちに十人の子供たちが藜（あかざ）の草堂っていうのを作るんです。その姿を拝したんでしょうな。

で、その後に若党の槍持がつく。その後ろに鋏箱と書いてはざこ。それから御幣がつく。その後には猿田彦というね、天狗のお面をかぶった人ですな。それから青侍という公家とか貴族の家勤めの侍が2人つく。それから三本棒という鉾がつく。それから幟がつく。それからびんざさら役3名。笛役1名、腰太鼓役2名、大太鼓が町方から2名、ばちを左右に持った大太鼓が1名。獅子役が1頭に2人ずつ入っているんで4人ですね。右手が1本角の雄で、角のない方が雌。獅子に入ると前が見えないでしょ、だから介添え役というのが8人付きます。それからご神馬、たいていは白馬なんですけど。それからさっき言った顕松院のお坊さんがつきます。それから社客が3名つく。それから寺代官の後には並木町っていうと、雷門からまっつぐ駒形方面に延びている町の名主が付く。今は道に挟まれた区画を何々町といいますけど、昔は通りに面した両サイドで何々町ですよ。両側町と片側町の違いということで。こういうところが地図を読む時に一番大事なところですね。

図４：戦国絵巻に描かれた母衣

山車に出てくる「母衣」って何だ？

その一方、浅草御門、つまり浅草見附の外には早朝から各町の山車や練り物などが全部集まる。今の浅草橋のところですね。練り物っていうのはさっき言ったテーマのある仮装行列みたいなものですな。踊りを踊る屋台みたいなものも加わって全部集まる。で見附を出て御蔵前、諏訪町、並木町、仲見世を通って本堂外陣まで来ます。で、本堂にお神輿が飾ってあるのを練り物の連中が参詣して、本堂下の左っ方に舞台があって、町ごとに踊りを踊ったり何かしらの芸をやるわけですな。で、それが終わると随身門、今の二天門を抜けて各町に帰っていく。そこで練り物とか屋台の行列は終わるわけです。

一番最初の山車というのがお榊、一部よくわからないのもあるんだけど、三番が並木町の幟、四番が駒形の幟、五番が材木町の小母衣（こぼろ）。母衣（ほろ）っていうのはきれで作った風船みたいなものですな（**図4**）。風船っていうと変かな。風をはらむとアドバルーンみたいになるんですな。戦の時に母衣を担いでいる人がいて、向こうから一斉に矢が飛んできた時に、ここに刺さっても誰も死なない。大母衣小母衣、いろいろあるんです。鎧兜なんかもいるんですよ、三社の祭りで。

氏子以外の町も参加する「助祭り」

それから諏訪町の山伏の山車がある、それから片町、これはもう蔵前の方です。本当は三社の氏子じゃないんです。当時三社がすごかったのはね、「助祭り」といって、ものすごく大きなお祭ですから、協賛してうちも何かやりましょうみたいな町がたくさんあったんです。それくらい派手なんですね。

それから花川戸の船屋台。9番目に山の宿の…これ、よくわからないですけど。10番目に聖天町の幟と大幌がつきます。11番が砂利取りという屋台。12番目は萱町1丁目、萱町なんてのはまさに浅草橋ですからね、助祭りです。それから五雲転がしという出し物が出る。13番目に萱町2丁目が紅葉狩りというお芝居をやります。14番目は瓦町、聖天町下瓦町とかいうんですけどね、浅草寺の瓦を作っていた町らしいんです。ここが屋台の上に大からくり。15番目は天王町…も蔵前の方ですけど。ここは七福神。16番目に黒船町。厩橋と蔵前の間くらいのところですな。

で、そこまで史料が残ってるんですけど、この後がちぎれてて、17番目以降が出てこないんです。だけど当時の氏子は18か町あるわけだから、この先がなきゃおかしい。だって今、助祭りを含めて16番までしか書いてないから。

「堂下げ」から いよいよ船渡御へ

これらが大体午前10時半に終わるとお堂下げになるんです。いよいよお神輿を本堂から担いで下ろす。で、さっき言った行列の逆走をするんです。仲見世通って駒形通って御厩河岸（おんまいがし）通って、蔵前通って見附まで行くんですね。この時の担ぎ手っていうのは、花川戸町と山の宿町の担当です。

午後は御旅所といって、お神輿の休憩所みたいなものが作ってあって、そこを出発。早朝から浅草橋の方には船が揃ってる。この船がみんな大森海岸から来てるんです。なぜ大森かって話は前にしたと思うんですけどね。観音様がご示現して以来、駒形堂（こまんどう）から上流は殺生禁断になってしまって、浅草の漁師が漁をすることができなくなって、みんなそろって大森に移住してるんです。ですから大森の漁師はもともと浅草の漁師だっていうことでね。そういうところの人たちが自分の船を持ってきて、塩をまいたりね、磨きかけたりして清めて待っている。そこにお神輿が到着する。

図５：現代の神輿は白とピンクのさらしが巻かれている

で、大森の漁師の手によって神輿を船の上に乗せる。一艘船に一基のこともあれば、二艘の船に渡り板をつけて、二艘船で漕いだこともあるんですけど、それで駒形堂あるいは花川戸の辺りから上陸。神輿を元のメンバーで宮入りというか、浅草神社まで持っていくんです。駒形まで手こぎで着くのが3時くらいだったそうですからね、大変早いですね。というのは川の流れが今とは違うんです。

川の流れが今は両方がカミソリ堤防という状態でまっつぐだから早いんです。だけど昔は洲と言ってね、いろいろなところに砂利が出ていたり、いろんなものにぶつかったりするんですね。当たって当たってっていう状態で流れが優しいから、櫓の船でもさかのぼってこられるんですね。今はエンジン付けなきゃ、櫓じゃとてもおっつかないですよ。一生懸命漕いでても逆になっちゃう。年寄りが下りのエスカレーター上がってるようなもんですから。

陸に上がると飾りを取ってさらしを巻く。紅白のさらしだと言っている。今は白とピンクだね（**図5**）。これを担いで蔵入れするわけです。陰祭の時は支院の間をしずしずと回るだけだったといいます。

（次号に続く）

文・本文中の写真：古沢保　デザイン：安田ナオミ　vol.41

ウチのイチオシ！

魚菜

すいとん鍋

お店の紹介は P.19　地図 P.14-A1

電 03-3842-1919　営 平日17:00〜23:30 日祝12:00〜22:30

住 台東区浅草1-17-9　休 年中無休

http://asakusa.gr.jp/shop/uosai.html

雷門柳小路にある和洋居酒屋風レストランの魚菜。10月下旬から4月下旬には「すいとん鍋」を目当てにやってくるお客さんが増えます。年配者には懐かしいこのメニュー、店主の大島温さんが昔食べた思い出の味を、試行錯誤を何度も繰り返してたどり着いたもの。「若い人には目新しいらしく、根菜を入れた中でも特に芋がらは珍しがられます」。冬場のコース料理にはすいとん鍋を入れるメニューもあり、〆には深い味わいのおじやも楽しめます。寒い季節には自然と足が吸い寄せられそうです！

三角

ふぐ料理

1902（明治35）年の創業以来、良質の魚を提供し、戦後は「ふぐ料理」を看板料理にしてきた三角。「極薄に引かれたふぐの刺身にポン酢を少々つけて1枚、2枚、ひれ酒と共に楽しむのが最高。その後の鍋を賞味し終わったら、ご飯を入れて卵でとじてふぐ雑炊。ポン酢、塩、醤油、もみじおろし、浅葱を散らしても良し、お好みでどうぞ」と店主・戸塚富士男さんの話を聞くだけで美味しそうです。11月頃からは白子も出始めます。「白子焼、天婦羅などふぐのお味が凝縮されています。一度お試しを」。

お店の紹介は P.20

地図 P.14-A1

電 03-3841-7650

営 13:00〜22:00（L.O. 21:00）

住 台東区浅草1-20-7

休 水曜日　年始・お盆は不定休あり

http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm

尾張屋

上天そばと季節のおそば

お店の紹介は P.20　地図 P.14-C1

電 03-3845-4500　営 11:30〜20:30

住 台東区浅草1-7-1　休 金曜日

http://asakusa.gr.jp/shop/owariya.html

幕末の創業以来、地元浅草と共に歩んで来た日本そばの尾張屋。大きな海老の「天ぷらそば」と「天丼」は三代目から受け継ぐ看板メニューです。加えて四季折々の季節ものが大きな魅力。8月下旬からは「仲見世のある大旦那さんは、これをあがりに毎日みえます」と五代目店主の田中美実さんが話す「松茸そば」。10月から3月までは岩手の鴨の薄切りを使った「鴨南蛮」と、冬にしか作り置きができない「蕎麦寿司」。真冬には時期が短い「あられ蕎麦」と続きます。一年中通いたくなるお店です。

よ兵衛

あったかまいう餅

浅草で開業して32年の揚げ餅・お団子専門店よ兵衛。女将の竹山智子さんが「若い世代にもっと気軽に新しい食べ方にチャレンジしていただきたい」と提案するのが「あったかまいう餅」。薄口醤油の関西風白出汁に、こんがり香ばしい国産杵つき100%の揚げ餅を「じゅっ」と入れるユニークな食べ方です。「試作の段階で思わず口から『まいう!!』と洩れたのでメニュー名にすると、石ちゃん（石塚英彦さん）ご本人がテレビでご来店。『これは本当にまいう!!』と絶賛してくれて感激の一場面でした！」

お店の紹介は P.26　地図 P.14-B3

電 03-3841-0868　営 9:00〜18:00

住 台東区浅草2-2-7　休 木曜日（年末・正月は営業）

http://www.agemochi-yohei.com/

浅草周辺マップ

浅草寺マップ

浅草寺境内石碑ガイド　浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

1 川口松太郎の句碑
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。

2 久保田万太郎の句碑
「竹馬やいろはにほへとちりぢりに」と刻む。

3 市川猿翁の句碑
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿之助の句を刻む。

4 河竹黙阿弥顕彰碑
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。

5 中村吉右衛門の句碑
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。

6 並木五瓶の句碑
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。

7 山東京伝机塚の碑
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。

8 釘供養碑

9 団十郎「暫」の像
九代目市川団十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。

10 映画弁士塚
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。

11 半七塚の碑
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。

12 三匠の句碑
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。

13 正岡子規句碑
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。

14 芭蕉像と句碑
「くわんをんのいらか見やりつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。

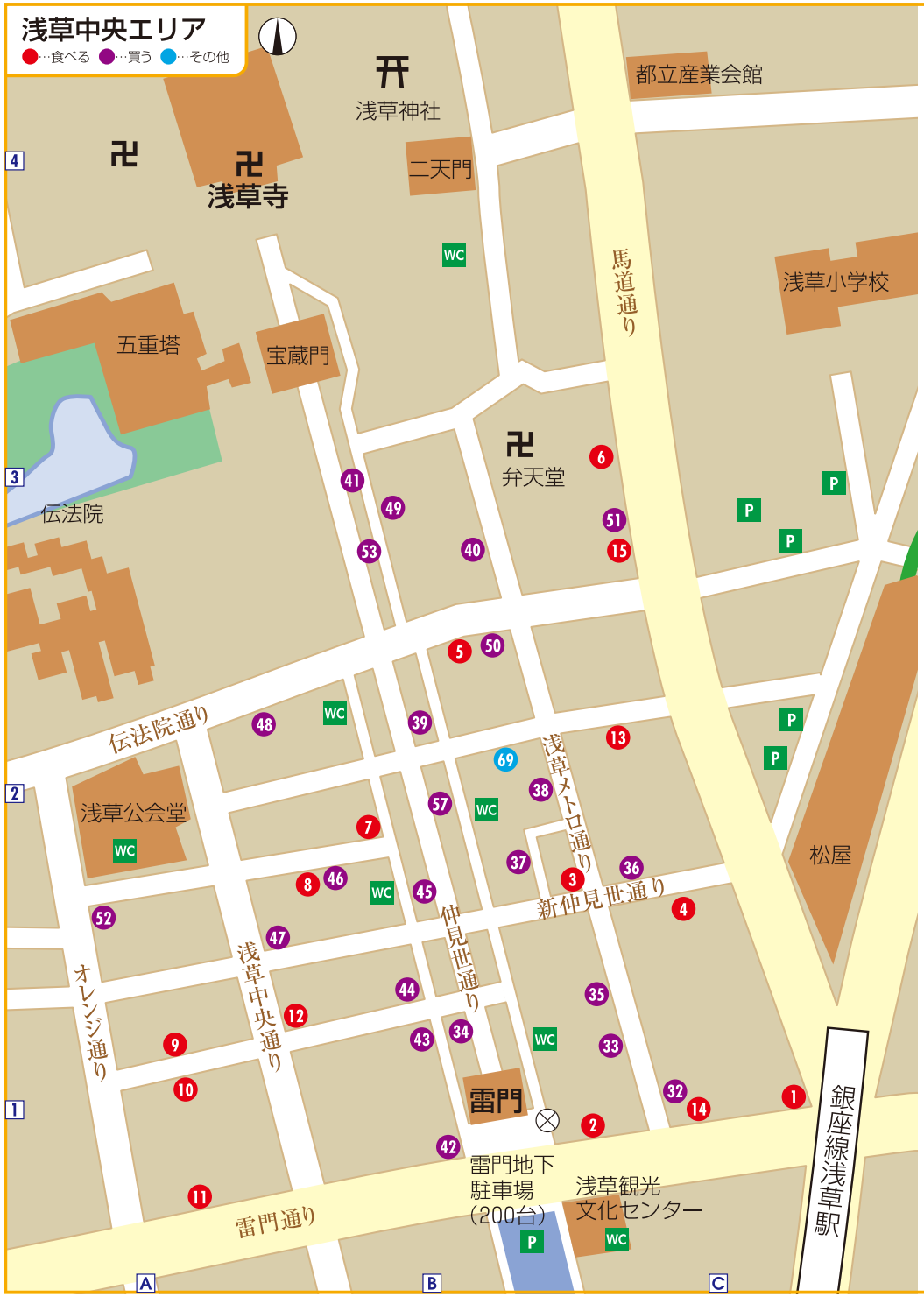
15 旧五重塔跡碑

16 浅草寺の神木・いちょう
源頼朝公が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくぐり抜けた神木として大切にされている。

17 夫婦狛犬
二体並び寄り添う一対の狛犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦和合」の願いを込めて祀っている。

18 三柱の石碑
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。

19 神木・槻の木
浅草寺御本尊の聖観世音菩薩が檜前浜成・竹成兄弟に網得された際、安置されたのが槻の木の切株。以来、絶えることなく自生する縁の深い木である。



中央部会員店

1. 神谷バー
2. 雷門 三定
3. 浅草うまいもん あづま
4. かと里
5. 名代らーめん 与ろゐ屋
6. 浅草 鮨よしだ
7. 釜めし 麻鳥
8. 炭火会席 蔵
9. お好み焼き 一丁目
10. 和風居酒屋 魚菜
11. 天ぷら 葵丸進
12. 三角
13. 鉢の木
14. 尾張屋
15. 弁天山 美家古寿司
32. 手焼きせんべい 和泉屋本店
33. 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
34. 浅草きびだんご あづま
35. 諸国名産珍味 熊野屋
36. おもちゃのサワダ
37. 婦人・子供服 東京モード
38. 組紐 桐生堂
39. 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
40. てぬぐい ふじ屋
41. あげまんじゅう 浅草九重
42. 常盤堂雷おこし本舗
43. 刃物 かね惣
44. 舞扇 文扇堂雷門店
45. 舞扇 文扇堂仲見世店
46. ミドリ屋
47. 毛皮・婦人服 三ツ福ハシモト
48. よのや櫛舗
49. よ兵衛
50. 和装履物 浅草辻屋本店
51. 浅草の保健室ネオ
52. 江戸金銀工芸もり銀
53. コマチヘア
69. 村石電気工事

北部会員店

16. 和風れすとらん若
17. レストランにぃど・だもぉれ
18. 料亭 都鳥
19. すし処 清司
22. 料亭 浅草田甫 草津亭
54. 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
55. 株式会社製菓川喜多

山谷堀

山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社

毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社（せんげんじんじゃ）は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天

待乳山聖天（まつちやましょうてん）は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。

昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。

西部会員店

- 14 尾張屋
- 20 常寿司
- 21 天麩羅 中清
- 23 居酒屋 TAKEYA
- 24 すき焼 浅草今半
- 25 どぜう飯田屋
- 26 中國小菜 龍圓
- 53 コマチヘア
- 56 デイジー
- 57 渡辺眼鏡商店
- 58 演劇・舞踊小道具 すずや
- 59 足袋・祭用品 めうがや
- 60 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
- 61 ヤマダの家具
- 62 今昔きもの龍巳（胡蝶）
- 63 まつもと履物店

江戸下町伝統工芸館

ひさご通り内にある酒落たたたずまいの江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧下さい。
http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html

久保田万太郎生誕の地

久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。

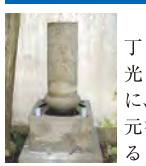
南部会員店

- 27 シーフードレストラン 月見草
- 28 ロシア料理 マノス
- 29 うなぎ 初小川
- 30 茶寮 一松
- 31 三代目魚熊
- 64 和菓子 龍昇亭 西むら
- 65 市川とうふ店
- 66 木彫 宗舟
- 67 書道用品 宝研堂
- 68 ゴルフ グリーンジャケット
- 70 ホテルサンルート浅草

駒形堂

駒形堂（こまんどう）は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六（勘亭流元祖）の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六（文化2年2月3日に59歳で没）の墓がある。

勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といい、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字（勘亭流）が主流となったという。

はなし塚

田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草槐の会・会員店紹介

1 神谷バー（雷門通り） ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14 - C1

地図内番号 ／ 店名 ／ 通り名 ／ 分類 ／ 地図掲載ページ

食べる

1 神谷バー（雷門通り）

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14 - C1

明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400
住 台東区浅草1-1-1
営 11:30～22:00(L.O 21:30)
休 火曜日
http://www.kamiya-bar.com/

2 雷門 三定（雷門通り）

天ぷら・和食 地図 P.14 - C1

創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとに変わる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200
住 台東区浅草1-2-2
営 11:30～22:00(L.O 21:30)
休 無休
http://www.tempura-sansada.co.jp

3 浅草うまいもん あづま（新仲見世通り）

和食・寿司・甘味 地図 P.14 - B2

なつかしい味の下町料理（和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…）を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190
住 台東区浅草1-32-1
営 平日11:00～21:00
土日祝10:30～21:00
休 無休
http://aduma.tokyo

4 かと里（新仲見世通り）

食処・茶処 地図 P.14 - C2

トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしるこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひと時をお過ごしください。

電 03-3841-7400
住 台東区浅草1-1-11(2F)
営 11:00～20:00(L.O 19:30)
休 木曜日
http://asakusa-ryoin.jp/katori/

5 名代らーめん 与ろゐ屋（伝法院通り）

らーめん 地図 P.14 - B2

醤油らーめん発祥の地、浅草!昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共にお楽しみ下さい。

電 03-3845-4618
住 台東区浅草1-36-7
営 11:00～20:30
休 無休
http://www.yoroiya.jp

6 浅草 鮨よしだ（馬道通り）

寿司 地図 P.14 - C3

「こだわらないのにこだわりたい鮨づくり」日本の旬を浅草で…全国津々浦々の旨い魚にこだわり、江戸前の仕事（煮蛤、鮪のづけ等）にこだわり、そしてお店よりお客様にこだわって頂きたい楽しい鮨屋です。

電 03-3845-7557
住 台東区浅草2-1-14
営 11:30～14:00
17:00～24:00
休 日曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/yoshida.html

7 麻鳥（公会堂横通り）

釜めし・串焼き 地図 P.14 - B2

新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島の伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527
住 台東区浅草1-31-2
営 11:00～22:00(L.O 21:00)
休 無休
http://asa-kusa.jp/asadori

8 蔵（公会堂横通り）

炭火焼会席 地図 P.14 - B2

旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30～23:00(L.O 21:00)
休 無休
http://asa-kusa.jp/kura

9 一丁目（雷門柳小路）

お好み焼き 地図 P.14 - A1

新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 火水木12:00～15:00/17:00～22:00
金17:00～22:00
土日祝12:00～21:00
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html

10 魚菜（雷門柳小路）

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14 - A1

魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00～23:30
日祝日12:00～22:30
休 無休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html

11 葵丸進（雷門通り）

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14 - A1

「旬の肴に天麩羅でちょいと一杯」季節料理に天丼・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:00～21:00(LO20:00)
休 第2・4月曜日
（祝日の場合は翌日）
http://www.aoi-marushin.co.jp/

12 三角（浅草中央通り）

ふぐ　地図 P.14 - A1

明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 13:00~22:00(LO21:00)
休 水曜日、正月、お盆は不定休あり
http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm

13 鉢の木（公会堂東通り）

甘味・喫茶　地図 P.14 - C2

浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしるこ、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30～18:00
休 水曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html

14 尾張屋

日本そば　地図 P.14 - C1

百五十年の長きにわたり、地元浅草の方々、観音様を参拝の皆様に広く愛されてきた老舗です。店内にある「浅草寺御用達」の看板は、浅草とともに歴史を歩む尾張屋のささやかな誇りです。そば粉は信州産を中心に、最高の国産粉を使用。本かつお節のつゆ、特注の胡麻油で揚げた天ぷらは、コクがあってさっぱりとしたあと味でご好評をいただいています。

電 03-3845-4500(本店)
03-3841-8780(支店)
住 台東区浅草1-7-1(本店)
台東区浅草1-1-3(支店)
営 11:30~20:30 休 金曜日(本店)、水曜日(支店)
http://www.asakusa.gr.jp/shop/owariya

15 弁天山 美家古寿司

寿司屋　地図 P.14 - C3

創業慶応2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ヅケ、酢メ、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 月~土 11:30~14:30(LO 14:00)、17:00~21:00(LO 20:00)
日祝 11:30~18:30(LO 18:00)
休 月、第3日曜日　http://bentenyama-miyakosushi.com

16 和風れすとらん若（浅草猿若町町会事務所側）

洋食レストラン　地図 P.15

江戸の名残の和風作りのお店で、洋食と色々なお酒をお楽しみください。特製ヒレカツサンドと、のりカツロールはお子様からお年寄りまで喜んで頂けるお土産に大人気です。(不定休の為、必ずお電話で御予約下さい。)

電 03-3876-2500
住 台東区浅草6-20-2
営 17:00~21:00
休 不定休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/waka.html

17 にいど・だもぉれ（浅草猿若町市村座跡）

レストラン　地図 P.15

昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
営 ランチ11:00~14:00、ディナー1日1組予約のみ17:00~22:00
休 日祝、第2・3土曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html

18 都鳥（浅草観音裏）

料亭　地図 P.15

江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、ご一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00～ 要予約
休 土日祝日
http://asakusa-miyakodori.com

19 すし処 清司（浅草観音裏）

寿司　地図 P.15

すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鮪は逸品です。鮪はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 月~土17:00~25:00
祝日18:00~24:00
休 日曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html

20 常寿司（たぬき通り）

寿司　地図 P.16 - C1

屋台の鮨屋が提供していた昔懐かしい鮨。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お奨め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30~21:00 休憩なし
休 月曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/tsunezushi

21 中清（オレンジ通り）

天ぷら会席　地図 P.16 - C2

数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30~14:00、17:00~22:00 土日祝11:30~20:00
休 火曜日、第2、第4月曜日
http://www.nakasei.biz/

22 浅草田甫 草津亭（観音裏言問通り）

料亭　地図 P.15

明治5年創業、江戸の歴史を今に伝える割烹料亭。この度10月に移転オープンいたしました。カウンター席での季節のおまかせ料理の他、本格会席をご用意しております。浅草芸妓もお待ちしております。

電 03-6802-3091
住 台東区浅草3-18-10
営 11:30~14:30(LO13:30)
17:30~22:00(LO20:00)
バータイム・21:00~23:00
休 不定休　http://www.kusatsutei.jp/

23 TAKEYA（浅草ひさご通り）

居酒屋　地図 P.16 - B3

昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00~23:00
土日12:30~14:00、17:00~23:00
休 月曜日　http://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya

24 浅草今半（国際通り）

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理　地図 P.16 - B2

厳選された黒毛和牛と秘伝の割下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30～21:30
休 年中無休

http://www.asakusaimahan.co.jp/

25 どぜう飯田屋（合羽橋本通り）

どぜう料理　地図 P.16 - B2

磨き込まれた籐敷きに
胡坐をかいて
どぜう鍋
一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 11:30～21:30(L.O 21:00)
休 水曜日、祝物日は前後振替

http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html

26 中國小菜 龍圓（国際通り）

中華料理　地図 P.16 - B2

心を込めた手造り料理!食で幸福感の味わい、「浅草に来て良かった、また来たい」、これが、龍圓のモットーです。本格中国料理からデザートに至るまで、心を込めて、お出し致します。

電 03-3844-2581
住 台東区西浅草3-1-9
営 平日12:00～14:00、17:30～21:00
日祝12:00～14:00、17:30～20:30
休 月曜日(祝日の場合は火曜日)

http://www.ryuen1993.com/

27 月見草（浅草並木通り）

シーフードレストラン　地図 P.17 - C2

魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 12:00～15:00
17:00～22:00(L.O 21:00)
休 無休

http://asa-kusa.jp/tsukimiso

28 マノス

ロシア風レストラン　地図 P.17 - B2

「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあ～れ～!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30～22:30(L.O 21:00)
ただし平日15:00～16:30準備中
休 火曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos

29 初小川（雷門仲通り）

鰻蒲焼き　地図 P.17 - B2

明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00～14:00、17:00～20:00 日祝17:00～20:00
休 不定休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsuogawa.html

30 茶寮 一松（万太郎横町）

会席料理　地図 P.17 - B2

ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょうか。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:00～22:30
休 月曜日・お盆・12月は不定休・年末年始

http://www.ichimatsu.co.jp

31 三代目魚熊

ふぐ・魚料理　地図 P.17 - B1

魚屋から始まり、皆様に支えられて創業77年。1日も欠かさず築地で魚を手に取り仕入れしています。魚のことでは妥協致しません。お客様の「旨い」の一言のため、感謝を込めて笑顔あふれる店作りに励みます。

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 17:00～22:30
休 日曜・祭日

http://uokuma.com

32 和泉屋本店（観音通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - C1

良質の食材（もち米・うるち米・醤油・天然塩等）を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-3841-5501
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30～19:30
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

33 和泉屋観音通り店（観音通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - C1

このところ、堅焼の人気が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30～19:30
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

34 浅草きびだんご あづま（仲見世通り）

きびだんご　地図 P.14 - B1

江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋なにいさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 9:00～19:00
休 無休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html

35 熊野屋（観音通り）

諸国名産珍味　地図 P.14 - C1

ちょっと昔、よく食べたあの口が曲がるくらい塩辛い紅サケの切身、お茶漬け、お酒にぴったりの塩干ダラ、本場新島の本乾クサヤの干物等々が下町浅草でお求めいただけます。本場大分産の肉厚シイタケも好評です。

電 03-3841-8089
住 台東区浅草1-19-10
営 10:00～18:00
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/kumanoya.html

36 おもちゃのサワダ（新仲見世通り）

玩具一般　地図 P.14 - C2

昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ベーゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

電 03-3842-7367
住 台東区浅草1-33-3
営 9:30～19:00
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html

37 東京モード（新仲見世通り）

婦人・子供服　地図 P.14 - B2

婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアーまで、最新デザインの商品をサイズ豊富に取り揃えております。お値段はサイフに優しい下町価格。普段のオシャレに、ダンスやカラオケの発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915
住 台東区浅草1-32-2
営 10:00～19:30
休 無休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokyomode.html

38 桐生堂（浅草メトロ通り）

組紐、和雑貨　地図 P.14 - B2

当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30～19:00
休 無休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html

39 和泉屋仲見世店（仲見世通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - B2

約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ（江戸童（わらべ）絵・日本人形・雷門）の手土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30～19:30
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

40 ふじ屋（弁天山側）

てぬぐい　地図 P.14 - B3

四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵てぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 10:00～18:00
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html

41 浅草九重（仲見世通り）

あげまんじゅう　地図 P.14 - B3

「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30～19:00頃
休 無休

http://agemanju.jp

42 常盤堂雷おこし本舗（雷門通り）

雷おこしを主とする菓子　地図 P.14 - B1

今も変わらぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓『雷おこし』家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 9:00～21:00
休 無休

http://www.tokiwado.tokyo

43 かね惣（雷門柳小路）

刃物　地図 P.14 - B1

プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業（明治6年）以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00～19:00
休 不定休

http://www.kanesoh.com

44 文扇堂雷門店（雷門柳小路）

舞扇、うちわ等　地図 P.14 - B1

扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30～18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html

45 文扇堂仲見世店（仲見世通り）

舞扇、うちわ等　地図 P.14 - B2

雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30～18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html

46 ミドリ屋（公会堂横通り）

舞踊衣装　地図 P.14 - B2

舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:30～18:00
休 毎月第2・4火曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html

47 三ツ福ハシモト（新仲見世通り）

毛皮、革、婦人服　地図 P.14 - A2

当社は、大正3年毛皮専門店として浅草千束で創業。昭和20年に現在地に移転し、毛皮を中心に皮革製品、夏は麻・綿素材、冬はシルク・ウール・カシミヤ等の天然素材を活かした婦人既製服を扱っています。

電 03-3844-3441
住 台東区浅草1-30-6
営 10:30～19:30
休 不定休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/hashimoto.html

48 よのや櫛舗（伝法院通り）

黄楊櫛、黄楊製品　地図 P.14 - A2

伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつげ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30～18:00
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html

49 よ兵衛（仲見世通り裏）

揚餅・お団子　地図 P.14 - B3

サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 9:00～18:00
休 不定休

http://www.agemochi-yohei.com/

50 浅草辻屋本店（伝法院通り）

和装履物　地図 P.14 - B2

浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きる鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00～19:00
休 無休

http://www.getaya.jp/

51 浅草の保健室ネオ（馬道通り）

クスリ　地図 P.14 - C3

浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 9:30～19:00
土9:30～18:00
休 日曜日

http://www.neo-ph.com

52 江戸金銀工芸もり銀（オレンジ通り）

銀製品全般　地図 P.14 - A2

日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリーetcを自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 10:30～18:30
休 無休

http://www.asakusamorigin.com

53 コマチヘア（第一店・新仲見世通り、第二・三店・仲見世通り）

かつら・頭飾品　地図 P.14 - B2, P.14 - B3, P.16 - C1

大正14年創業以来、職人気質の「かつら」づくりに徹しています。日本髪から男女洋かつら、ヘアピース、余興かつら、かんざしまで、豊富に取り揃えております。舞台化粧品も、お気軽にご相談ください。

電 03-3841-8191（第一店）、5523（第二店）
7434（第三店）
住 台東区浅草1-28-3（第一店）、1-31-1（第二店）
2-3-1（第三店）
営 10:30～19:00（第一店）
平日9:30～18:00、土日祝日9:30～19:00（第二店）
9:30～18:00（第三店）
休 無休　http://www.komachi-hair.co.jp/

54 宮本卯之助商店本店（吉野通り）

太鼓・神輿、祭礼用具　地図 P.15

文久元年（1861年）創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 9:00～17:00
休 土日祝日

http://www.miyamoto-unosuke.co.jp

55 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売　地図 P.15

弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売り販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきろうと、「浅草川喜多」の名前での洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00～17:00
休 日・祝日（土曜日不定休）

http://www.s-kawakita.co.jp

56 デイジー（新仲見世通り）

バッグ、小物　地図 P.16 - C1

魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリ!カラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入も個性的な貴女にピッタリ!特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118（FAX共通）
住 台東区浅草1-22-10
営 10:00～19:30
休 不定休 2ヶ月に1回ほど

http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html

57 渡辺眼鏡商店（たぬき通り）

めがね　地図 P.16 - C1

創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30～19:00
休 火曜日（祝日の場合は営業）

http://www.watanabemegane.com

58 すずや（西参道商店街）

演劇、舞踊小道具　地図 P.16 - C2

時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798
住 台東区浅草2-7-13
営 10:00～18:00
休 火曜日

http://www.asakusasuzuya.co.jp/

59 めうがや（言問通り）

足袋、祭用品　地図 P.16 - C3

“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:00～19:00
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya

60 宮本卯之助商店西浅草店（国際通り）

太鼓・神輿、祭礼用具　地図 P.16 - B1

文久元年（1861年）創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 9:00～18:00
休 年中無休

http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/

61 ヤマダの家具（合羽橋通り）

家具・内装工事・リフォーム　地図 P.16 - A2

飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近はイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 9:00～17:30
休 日曜・祝日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada

62 今昔きもの 龍巳（胡蝶）（オレンジ通り・伝法院通り角）

着物　地図 P.16 - C2

胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30～19:00
休 無休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html

63 まつもと履物店（浅草ひさご通り）

和装履物専門店　地図 P.16 - B3

自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 10:00～20:00
休 火曜日

http://www.wasou-hakimono.com/

64 龍昇亭西むら（雷門通り）

和菓子司　地図 P.17 - C2

看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

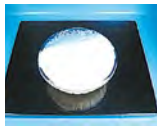
電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:00～20:00
休 不定休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html

65 市川とうふ店（万太郎横町）

豆腐　地図 P.17 - B2

浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではとくに"おぼろ豆腐"が人気です。水にまったくさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。



電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00～19:00
13:00～16:00は休憩
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html

66 宗舟（浅草消防署手前右入る）

木彫刻　地図 P.17 - B2

初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 10:00～17:00
休 日曜日・祝日

http://so-syu.jp

67 宝研堂（江戸通り駒形どぜう裏）

書道用品専門店　地図 P.17 - B2

ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのとでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試し下さい。

電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 平日9:00～18:00
第1・3日曜10:00～17:00
休 第2・4・5日曜、祝日

http://houkendo.co.jp

68 グリーンジャケット

こだわりのゴルフ用品　地図 P.17 - B1

梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中)他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-3847-0871
住 台東区浅草3-12-5
ロワール浅草寿201号
営 10:00～18:00
休 日曜日・祝日

http://www.green-jacket.co.jp/

69 村石電気工事（仲見世会館そば）

電気工事業　地図 P.14 - B2

右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK（フランス料理店）です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00～17:00
休 日曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html

70 ホテルサンルート浅草（田原町駅前・国際通り沿い）

ホテル業　地図 P.17 - A2

田原町駅から徒歩1分!特に出張のお客様には、気取らず、それでいて質の高いサポートを第一に考えております。また、お食事とお飲み物は24時間"jonathan's"が提供致します。装い新たになったお部屋を是非お試しください。

電 03-3847-1511
住 台東区雷門1-8-5
営 チェックイン14:00
チェックアウト11:00
休 無休

http://www.sunroute-asakusa.co.jp/

御神木「槐」の木の由来（ごしんぼく「えんじゅ」）

槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなる。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられるが、日本では街路樹などにも多く植えられている。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうだ。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起こりだと伝えられている。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社である。

槐の会からのお知らせ

浅草槐の会（あさくさえんじゅのかい）は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年（628年）3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株（現在の駒形堂あたり）に安置されたといういわれから“浅草槐の会”と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

浅草槐（えんじゅ）の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。

浅草文化観光センター

台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日（金）にリニューアルオープンしました。
開館時間午前9:00～午後8:00（年中無休）

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2～3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

□ TEL：03-3842-5599 FAX：03-6673-3046
□ ホームページ http://www.taitouboragai.com